

上杉鷹山

2020. 8. 21

為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり

有名な言葉である。上杉鷹山の言葉である。上杉鷹山（上杉治憲）は、江戸時代中期の大名であり、出羽国米沢藩第9代藩主である。財政が破綻し、領地返上寸前の米沢藩再生のきっかけをつくり、江戸時代屈指の名君として知られている。

私は以前から、自分は日本人であり日本に住んでいながら日本のことを知らないということが気になっていた。

もうずいぶんと昔のことになる。第35代アメリカ合衆国大統領にジョン・F・ケネディが1961年に就任した際に、日本の記者団に「日本で一番尊敬する人物」を聞かれたとき、すぐに上杉鷹山の名前を挙げたという逸話があることを知った。少なからずショックだった。その当時、私は上杉鷹山のことをほとんど知らなかったのである。

ケネディは、内村鑑三が海外向けの日本人論として英語で著した『代表的日本人』により、上杉鷹山を知り、政治家の理想像を見たのだそう。ジョン・F・ケネディの長女で駐日アメリカ合衆国大使を務めていたキャロライン・ケネディは、山形県や米沢市の要請に応じて2014年9月に米沢市を訪れ、父親のケネディが上杉鷹山を称賛していたことに触れるスピーチをしている。

それからは、竜門冬二の『小説 上杉鷹山』を読んだり、ケネディも読んだという『代表的日本人』を読んだりした。米沢といえば、福島のスグ隣である。県をまたぐとはいえ親近感がわく。勉強した結果、なぜ米沢には特産物が多く、産業が根づいているのだろうかという疑問も解決した。

読賣新聞が日本の自治体首長に対して行ったアンケートでは、理想のリーダーとして上杉鷹山が1位に挙げられたこともある。米沢藩中興の祖といわれる上杉鷹山は、現在の米沢市民にも尊敬されており「鷹山公」と呼ばれる。

わずか17歳で米沢藩主となった鷹山には師がいた。細井平洲である。平洲は愛知県東海市の出身である。東海市には平洲小学校や平洲中学校など平洲の名がつく学校や平洲記念館などがある。平洲が現在でも郷土の偉人として敬愛されていることがわかる。東海市のキャラクターは、平洲をモデルにした「へいしゅうくん」である。

鷹山の生涯を知れば知るほど、師である細井平洲の影響が大きいことがわかる。鷹山の藩政改革には、儉約令、産業振興、財政支出半減などがある。鷹山の治世には、天明の大飢饉が起こったが、人口減少を最小限に食い止めている。

鷹山による米沢藩の藩政は、日本全国のおよそ280藩の中でも模範として幕府から称揚されていた。特に寛政の改革の主導者であった老中松平定信からは高く評価され、鷹山を将軍拝謁の上「国政別格」と表彰されるよう取り計らっている。定信は後に鷹山死去の報を聞いたとき、「三百諸侯第一の賢君が亡くなられた」といって涙したとされる。

米沢は近いので、何度か上杉神社にも足を運んでいるが、学生の頃は「上杉鷹山」という名前を目にしても何の反応もしなかった。それが鷹山の生涯、功績等を知ってからは、上杉神社に対するスタンスが変わった。日本が誇る日本人、上杉鷹山、ぜひ海外の人に紹介したい人物である。また、一人の日本人として上杉鷹山を紹介できるようにしておくことが、自分の国、日本を理解することにもなる。